

公的保育制度を守る声と

運動を広げていこう



集会成功にむけての全国・現地の合同実行委員会 (11月16日)



オープニング企画の猛練習

保育自治体キャラバン 大阪府・府内44自治体と懇談

10月から1ヶ月の日程で、府内市町村の保育担当者を訪問しました。大阪保育運動連絡会に参加する福祉保育労、保護者、大阪自治労連保育部会のメンバーで行い、今年は大阪府とも懇談し、府内すべての44自治体と懇談することができました。

「第22回自治体保育労働者の全国集会」の準備も着々

来年2月22日・23日の2日間、エル・おおさか（大阪府立労働センター）を会場に「第22回自治体保育労働者の全国集会inおおさか」が開催されます。

国が2015年4月実施をめざして「子ども・子育て支援新制度」の準備をすすめている最中の開催となります。

この集会は、新制度をこのまま実施させないたたかいを、消費税増税阻止の国民的なたたかいと一体に大いに発展させる意思統一をする場となります。あわせて切実な保育要求を掲げて公的保育の抜本的な拡充を求める各地のたたかいを、大いに学びあい交流する集会です。

22日は、放射線防護学、平和学が専門の安齋育郎さん（立命館大学名誉教授・立命館大学平和ミュージアム名誉館長）に「平和な世の中を子どもたちに手渡すために私たちがしなければならないこ

と」と題して記念講演をお願いしています。

23日は、「待機児童の解消・保育の質の向上を求める運動」など6つの分科会と「新制度と保育の専門性」「保育は「福祉？」それとも「サービス？」」の2つの講座で学びあい交流します。

大阪での開催ということで、オープニング企画も、各単組からメンバーを募り、練習が始まっています。

「維新」の悪政をはじめ、大阪で起こっている現状を伝え、大阪の元気な姿を全国にアピールしていきます。

うちら負けへんで あついで大阪によろおこし

第22回 自治体保育労働者の全国集会inおおさか

2014年2月22日(土)～23日(日)
会場：エルおおさか
記念講演：安齋 育郎さん
参加費：4000円



集会キャラクター「あめちゃん」

ジェンダー平等にむけて

憲法24条

「家庭生活における個人の尊厳と平等」—戦前、女性は「家」制度のもとで「戸主」である父や夫に従わなければならない、無能力者として扱われ、選挙権もありませんでした。こうした差別的な女性の地位を決定的に変えたのが憲法です。第24条で、家庭生活における「個人の尊重」と「両性の平等」をうたい、第13条で定められた基本的な人権の尊重などと、ともに女性の人権を宣言したものです。

岸和田市長選挙



信貴さん（中央）とともに勝利を喜びあう「民主市政の会」



橋下・維新政治に再び「ノー」

魅力あるまちづくり訴えた 信貴芳則さんが勝利

11月24日投票で行われた岸和田市長選挙は、「岸和田のことは岸和田で決める」「大阪府や大阪市、維新の会のいいなりにほならない」と、反維新を明確に打ち出した信貴芳則さんが当選しました。大阪自治労連は「岸和田民主市政の会」とともに奮闘しました。

「維新政治」の持ち込み許さない

選挙は、橋下・維新の会が大阪市を進める、市民のくらし切り捨てや従軍慰安婦発言、職員の思想調査など異常な人権感覚に基づいた「維新政治」を、歴史と伝統ある岸和田市に持ち込ませるのか、「市民が主人公の市政」の発展をめざすのかが問われた選挙戦でした。

相手候補は選挙期間中、

生きる希望のもてるまち岸和田を



福祉・教育の充実を市民に訴えました

保守・無所属を名乗り、徹底して「維新の会」を隠してきました。しかし政策も規制緩和、公立保育所の民営化、小さな市役所、公共施設の売却と維新政治そのもの。

そんな中、「維新政治の岸和田市政への持ち込みノ」。「生きる希望のもてるまち岸和田を」の目標で、

党派を超えて幅広い市民との共同の輪がひろがりました。

市民共同の力 大いに広げて

堺市長選挙での「維新ノ」の流れを市民共同の力で岸和田でも広げ、「維新」を隠して選挙戦を行っても「維新政治は受け入れられないこと」を示したことは、府下に存在する維新政治の横暴をストップさせ、5年間の大阪での橋下・維新の会との闘いに決着をつける大きな意義があります。

市民と丁寧に話し合い市政を運営していく立場に立つ、信貴芳則さんを先頭に岸和田で長く培われた、市民が主役の「生きる希望の持てるまち・岸和田」をつくっていく新たなスタートとなるものです。

今月のキーワード

NHK経営委員会

NHKの最高意思決定機関。委員は国会の承認を経て首相が任命します。任期は3年。さきごろ、5人の委員が任命されました。その顔ぶれは、憲法9条をないがしろにする発言を繰り返す作家や、右翼・改憲団体のメンバー、安倍首相の小学校時の家庭教師など首相の「お友だち」ばかり。思想的にも偏った人によって占められたことに批判の声が上がっています。